

# SHOW MEY シネマール

★★★

## 彼の見つめる先に

2014年/ブラジル映画

配給：デジタルSKIP ステーション、アーク・フィルムズ/96分

2018 (平成30) 年3月6日鑑賞

ビジュアルアーツ大阪

### Data

監督・脚本：ダニエル・ヒベイロ  
出演：ジュレルメ・ロボ/ファビオ・アウディ/テス・アモリン/ルシア・ホmano/エウジーニョ・デ・ソウザ

### ■ショートコメント■

◆私はブラジル映画をほとんど知らないが、ブラジルで1982年に生まれた若手、ダニエル・ヒベイロが監督・脚本し、2015年のアカデミー賞外国語映画賞ブラジル代表作に選ばれた「ブラジル初の青春映画」が、なぜか日本で初公開！

本作は、彼が2010年に手がけて人気を博した短編『今日はひとりで帰たくない』を長編映画化したものらしい。その主演となる盲目の高校生レオナルド（ジュレルメ・ロボ）をはじめ、その幼馴染の女の子ジョヴァンナ（テス・アモリン）も、さらに転校生としてこの二人に絡んでくる男の子ガブリエル（ファビオ・アウディ）も短編映画からの横滑りらしい。

チラシやプレスシートには「世界中で話題をさらった、少年少女のオシャレで可愛らしい胸キュン青春映画の傑作」とあるが、69歳をむかえた私が今更そんな映画をみても……。そう思ったが、つい試写の案内に誘われて……。

◆生まれた時から目の見えないレオナルドだが、両親の保護の下にここまで立派に成長し、学校でも家庭でも健常者と同じように学び、生活していることに感心。しかし、高2ともなれば性的関心も増すし、独立心も旺盛になるから、近頃のレオナルドはちょっと過保護ぎみな両親がうとうしらしい。

他方、幼馴染のジョヴァンナはいつもレオナルドの近くで身の回りの世話をしているが、やはり女の子だから最近はいろいろと彼を意識することも……。？そんな年頃のレオナルドの目下最大の関心事は、留学の夢とはじめてのキスのことだ。このまま順調にいけば、この幼馴染同士の初キスになるのが当然だが、そこに転校生のガブリエルが登場してくると……。

◆私の中高時代は男ばかりの一貫校だったから、男女共学の雰囲気はまったくわからないが、ブラジルの男女共学の高校はかなり自由度が高そう。私には今更そんな高校生活への

興味はないが、文科省の役人たちは本作からしっかり学ぶ必要があるはずだ。

もともと、本作はガブリエルの登場以降、ガブリエルがレオナルドのお相手をする事が多くなったため、ジョヴァンナはモヤモヤ。そのため、本作中盤は“胸キュン青春映画”における微妙な「三角関係」が描かれていく。

いたずらな同級生の策略(?)によって、危うくネコと初キスを交わしそうになったところをジョヴァンナに救われるストーリーを見ていると、レオナルドの初キスのお相手は当然ジョヴァンナと思われたが、さて現実はどうなるか？

◆最近ではLGBT（レズビアン、ゲイ、バイセクシャル、トランスジェンダー）が大はやり。近時観た台湾のミュージカル映画『52Hzのラブソング』（17年）でも女の子同士のカップルが登場していたし、大阪弁護士会では男性同士の弁護士カップルが話題をさらっている。しかし、本作中盤からはガブリエルがレオナルドの初キスの候補として登場してくるので、それに注目！なるほど、なるほど……。

「盲目の少年の性の目覚め」をテーマにした本作で、ダニエル・ヒベロ監督は主人公のキャラを盲目であるだけでなく、ゲイの少年とすることによって、おもしろいストーリーに仕立てている。それはそれでわかるものの、私は近時その手の映画に少しうんざり……。

2018（平成30）年3月8日記